

5. 1 大学図書館における学習・教育支援サービス

東京大学大学院教育学研究科教授

三浦逸雄

1. はじめに

現在、大学を取り巻く社会環境は極めて厳しい状況にあることはあらためて言うまでもない。18歳人口の減少に伴う大学受験者をめぐる大学間競争の激化、国立大学法人化や21世紀COEプログラムなどによる研究教育資金の競争的配分と大学の新たな序列化、大学生の学力低下に対する社会的関心と大学教育への批判など大学を取り巻く内外の環境は一段と厳しさを増している。また国の高等教育政策においても1990年代から大学審議会を中心に様々な答申や報告が提出され、最近でも文部科学省の中央教育審議会大学分会で知識基盤社会における高等教育の将来構想（グランドデザイン）が審議されている。さらに個々の大学レベルはすでに学部・学科の改組・新設、カリキュラムや入試など実に様々な改革が試みられてきている。

こうした高等教育を取り巻く環境の変化と国の政策および各大学による改革の取り組みが進むなかで、大学図書館は大学の使命にどのような貢献ができるのか、いまその理念と役割が問われている。とりわけデジタル情報環境下において教育・学習活動に大学図書館がいかなる役割を果たすことができるかが、大学図書館の将来にとって重要な課題になっている。

2. 高等教育の動向

2.1 国際比較における日本の高等教育

- ・ 高等教育の国際比較

学生数／進学率／設置者別在学状況／学生一人当たり教育支出／国の高等教育支出／就学形態別在学状況（『IDE-現代の高等教育』No. 458, 岸本睦久「激動する世界の大学—世界の大学の現状（資料）」2000年3月, p. 72-77）

2.2 高等教育の大衆化

- ・ 大学進学率が18歳人口の50パーセントに近づき、わが国の高等教育はマス段階からユニバーサル段階（マーチン・トロ）を迎えつつある。
- ・ 高等教育のユニバーサル化により多様な学生が高等教育機関に進学するようになり、学力低下など教育面でさまざまな問題が生じている。大学はそれに対応するために教育システムの改革が求められている。（「高等教育ユニバーサル化の衝撃〔II〕」『高等教育研究紀要』（高等教育研究所）第18号, 2003年3月）
- ・ 中等教育ならびに大学教育の現状に対する批判
大学生の学力低下批判（岡部恒治・戸瀬信之・西村和雄編『分数ができない大学生』東洋経済新報社, 1999年）
- ・ アメリカの状況（主に州立大学やコミュニティ・カレッジ）

アメリカではすでに 60 年代に学問志向の「アカデミック型」の減少、「就職指向型」や「遊び志向型」などの増加が指摘されている。基礎学力の不足した学生の増加による補習授業の導入など大学の学校化現象がみられ、大学が高等教育機関ではなく中等教育機関に成り下がっていると批判されている。(ピーター・サックス著『恐るべきお子さま大学生たち：崩壊するアメリカの大学』草思社)

3 高等教育政策と大学改革

3.1 高等教育政策 (1990 年以降) の展開

- ・ 1987 年に臨時教育審議会の答申を受けて大学審議会の設置(2001 年から中教審大学分科会)

(天野郁夫著 『日本の高等教育システム：変革と創造』東京大学出版会, 2003 年)

- ・ 大学審議会の一連の答申等による大学改革の取り組み
 - ・ 教育研究の高度化
 - ・ 高等教育の個性化
 - ・ 組織運営の活性化

(高等教育研究会編 『大学審議会全二十八答申・報告集—大学審議会十四年の活動の軌跡と大学改革—』ぎょうせい, 2002 年)

- ・ 大学審議会答申の集大成「21 世紀の大学像と今後の改革について」(1998 年) の意義
 - ・ 「課題探求能力の育成」
 - ・ 「教養教育の重視」
- ・ 特色ある大学教育支援プログラムの開始 (平成 15 年度)

3.2 大学改革の状況

- ・ 教育機能の強化 (教育内容、教育方法)
- ・ 大学院の多様化
- ・ 履修形態の多様化
- ・ 生涯学習事業
- ・ 情報化推進
- ・ 大学評価

(文部科学省編『平成 15 年度 文部科学白書 創造的活力に富んだ知識基盤社会を支える高等教育—高等教育改革の新展開—』)

3.3 大学の使命再考

- ・ アメリカ型大学 (19 世紀後半に形成)

教養 (Liberal Culture) : 教養 (一般) 教育—undergraduate education

研究 (Research) : 専門教育—graduate program

社会的効用 (Utility) : 職業教育—professional school

- ・ 高等教育機関のカーネギー分類

(<http://www.carnegiefoundation.org/Classification/>)

Doctorate-granting Institutions
Master's Colleges and Universities
Baccalaureate Colleges
Associate's Colleges
Specialized Institutions
Tribal Colleges and Universities

- ・日本型大学
- ・・目的の未分化：一般教育、職業教育、専門教育の融合
- ・・教員の意識：研究者 vs. 教育者
- ・・研究重視と教育重視：「21世紀 COE プログラム」と「特色ある大学教育支援プログラム」

4 大学図書館の学習・教育支援機能

4.1 米国大学図書館における学習・教育支援

- ・学部学生（学習）用図書館（undergraduate library）の沿革
- ・・独立の学部学生用図書館の設置：ハーバード大学ラumont図書館（1949年）
- ・・teaching library 概念：ミシガン大学学部学生用図書館（1958）
- ・・1960年代の拡大期を通して70年代前半にピーク、その後の停滞
- ・ライブラリーカレッジの構想と実践
- ・・1930年代にルイス・ショアーズの提唱。「ライブラリーカレッジの目的は、文献に精通した教員を伴い、クラスルーム中心のティーチングに代わり、特に図書館中心のインディペンデントスタディの利用を通して、学生の学習効果を高めること。」
「ライブラリーカレッジの構想はユニバーサル高等教育のためのアイデアと運動である。」
- ・・1960年代にパトリシア・ナップのMonteith College Library Experiment。この実験のもっとも重要な側面は図書館利用と授業・教室の統合、および図書館員・教員の二重の役割。

(村上泰子. “ライブラリー・カレッジの現代的意義”, 『日本図書館学会年報』Vol. 39, No. 2, June 1993, p. 47-54.)

- ・1970年代、80年代のteaching libraryの動向
(Stoffle, C. J., Gusikin, A. E. and Boisse, J. A. “Teaching, Research, and Service: The Academic Library's Role,” in *Increasing the Teaching Role of Academic Libraries*. Ed, by T. G. Kirk. Josssey-Bass, 1984)

4.2 我が国における学習・教育支援サービスの実態

- ・『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能－アンケート調査結果－』
(<http://www.cl.aoyama.ac.jp/~tnozue/ugl/>) に基づく学習・教育支援サービスの実態と課題

- ・「学習・教育活動を支援する図書館サービスの実施状況」
- ・「学習・教育活動を支援する電子図書館的サービスの実施状況」
- ・「学習・教育支援の強化・充実のための課題」

5. 新しい学習・教育環境における図書館サービスの可能性

5.1 多様な学習機会・新しい学習モデル

- ・学習革命：遠隔学習・eラーニング（吉田 文『アメリカ高等教育におけるeラーニング』東京電気大学出版局，2003年）
- ・高等教育のビジネスモデル：バーチャル・ユニバーシティ
Western Governors University
University of Phoenix
- ・バーチャル・ライブラリー（eBooks）
Questia, netLibrary, ebrary, etc
- ・新しい学習環境モデル
- ・ Learning Community Commons (<http://learningcommons.evergreen.edu>)

5.2 学習・教育支援サービスの可能性

- ・ハーバード大学のゲートウェイ・ライブラリー構想
(Dowler, Lawrence, ed., Gateway to Knowledge: The Role of Academic Libraries in Teaching, Learning, and Research. MIT Press, 1997.)
- ・「場所」としての図書館の再認識（快適な読書・学習空間）
例：コーネル大学図書館
- ・teaching library の新しいモデル
例：カリフォルニア大学バークレー校図書館
ウェイン州立大学図書館（UGE100プログラム）
- ・学習センター構想
例：アリゾナ大学 Integrated Learning Center (ILC) モデル

6 おわりに

- ・コラボレーション／パートナーシップの構築
Networking⇒ Coordination⇒ Collaboration
(Raspa, Dick/Ward, Dane,, ed. The Collaborative Imperative: Librarians and Faculty working Together in the Information Universe. Association of College and Research Libraries, 2000)
- ・中等教育と高等教育の連携
新しい学力観